

令和元年度 第9回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和元年5月30日（木）

2 会議の場所

名取市役所第1委員会室

3 出席者

山田市長

瀧澤教育長、佐藤教育長職務代行委員、相原教育委員、浅野教育委員、洞口教育委員

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

菊池教育部長、大友理事兼学校教育課長、大友次長兼庶務課長、大久保次長兼生涯学習課長、渡辺文化・スポーツ課長兼復興ありがとうホストタウン推進室、齋藤企画員兼庶務課長補佐、佐々木復興ありがとうホストタウン推進室総括リーダー

7 議題

(1) 「子どもの心のケアハウス運営事業について」

(2) 「復興ありがとうホストタウン事業について」

8 開会時間

午後1時30分

9 会議の概要

大友教育部次長兼庶務課長

それでは定刻となりましたので始めさせていただきます。

会議に入ります前に、お手元にご用意をいたしました資料の確認をさせていただきます。1枚ものの「第9回名取市総合教育会議次第」と、クリップ留めをしております「第9回名取市総合教育会議 資料」の2つを用意しております。不足がありましたらお教え願いたいと存じます。よろしいでしょうか。

本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、只今より会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長よりご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様にご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

先週日曜日に開催しました閑上地区まち開きでは、たいへん清々しい晴天のもと、開館したばかりの公民館・体育館での式典会場をはじめ、かわまちテラス、トレイルセンターなどはじめ9会場約2万人超える方々にご来場いただいて開催することが出来ました。全国からこれまでにいただいたご支援に対し名取市を挙げて感謝の気持ちを表せたのだと思います。また、被災された方々も表情も明るく非常に勇気付けられたとの事です。あの未曾有の東日本大震災の被害からここまで復旧・復興するまで8年あまりの歳月を要しましたが、新しいまちづくりを市民の皆様と進めることができましたことは、喜びにたえないところであります。たくさんの方のご理解と協力があればこそであり、深く感謝申し上げます。

また、閑上小中学校におきましても2年目を迎え、さらに順調に児童生徒数が伸びていると、お聞きしております。地域の発展には子どもの力が必要となります。一層の閑上地区の発展に向け、PRも含め、取り組んでいただきたいと思います。

本日の総合教育会議の議題につきましては、お手元の次第書のとおり議題を2つ準備しました。委員の皆様方から忌憚のない御意見を賜り、市政に反映させて参りたいと考えておりますので、限られた時間ではございますが、よろしく願い申し上げ挨拶とさせていただきますと思います。

大友教育部次長兼庶務課長

それでは、(3)の議題に入って参ります。ここから先は、「名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項」により、市長が議長として議事をすすめていただきます。山田市長、よろしくお願いいたします。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしくお願いいたします。

まず初めに、議題(1)子どもの心のケアハウス運営事業についてであります。

今年度の新しい取り組みとして子どもの心のケアハウス事業があります。既に旧閑上公民館の施設を利用し、6月3日から活動を開始する予定とお聞きしておりますが、本日は、登校が難しい状況にある児童生徒の実情を把握し、心のケアハウス事業の運営について協議、今後の活動に生かしてまいりたいと思います。はじめに、事務局から資料に基づき説明をお願いします。

大友理事兼学校教育課長

今年度から取り組む名取市子どもの心のケアハウス運営事業についてその概要をお話いたします。

1点目は、事業の目的と設置に至った経緯です。目的は大きく分けて2つあります。1つ目は登校が難しい状況にある児童生徒、保護者を支援するために「名取市子どもの心のケアハウス」を設置し、不登校傾向にある児童生徒の初期対応や自立支援を学校・関係機関と連携しながら学校外での児童生徒の学校復帰に向けた支援を行うことです。

2点目は、通所する児童生徒が安心して過ごし学べる場所にするとともに学校への復帰に向けて教育相談・進路相談・適応指導をはじめ、児童生徒のニーズや実態に応じた個別の支援を

行うことです。

設置に至った経緯は、別紙資料を参照ください。この事業は「みやぎ子どもの心のケアハウス運営事業」に基づいて実施するものです。東日本大震災に起因する心の問題等により学校生活に課題を抱えている児童生徒への支援を進めていきます。事業期間は、令和元年度から令和8年度までです。当初の計画では、平成32年度（令和2年度）までの事業でした。平成27年度から県内19の市町で取り組んでいます。県教委から名取市もぜひ取り組んでほしいという要請はあったものの事業期間終了後の財源の問題等も考慮しなければなりません。

また、名取市では、平成13年度頃から中学校に「訪問指導員」を配置し、不登校傾向にある生徒の家庭訪問、学校での別室の指導など、年間200時間ではありますが実践を進め、再登校できる生徒も見られるようになっていきます。

また、仙南けやき教室の利用もあり、昨年度は2人が通所し高校へ進学することができました。議会でも不登校の問題について一般質問で子どもたちの居場所作りが必要ではないかという意見をいただいております。

今回、実施期間が延長されたこと。予算経費は維持管理費のみ3分の2の補助率で他は10分の10、県からの補助であること。そして何よりも不登校問題が名取市として喫緊の教育課題であることから事業を開始することとしたものです。

次に、2不登校の現状についてです。平成29年度について不登校児童、これが年間30日以上欠席児童生徒数です。児童は65人、生徒が100人、合計165人です。これを、宮城県の不登校率と比べますと、平成29年度は、宮城県が0.66%です。名取市は、小学校が1.30%とほぼ倍近い率となっております。中学校は、宮城県が4.30%、名取市は4.28%。県と同レベルです。平成30年度について小学校は、やや改善の傾向がみられ1.15%。それでも高い数値です。名取市の中学校の平成30年度は4.98%。宮城県は、全国でも不登校の状況が大変よろしくないというような状況を考えれば、名取市もそれ相応のそれ以上の不登校、年間30日以上不登校率が高いということが分かります。

不登校となっている理由の主なもの家庭環境、友人関係、学業不振であると捉えています。

しかし、不登校の要因については、保護者や児童生徒本人と話をしても何が登校の妨げとなっているかがはっきりとしないものが多いというのが現状です。家庭環境をみれば生活習慣がしっかり身につけていないということ。親御さんもたいへん困り感があるようです。昼夜逆転した生活、ネットやSNS依存、将来はyoutuberになりたいという状況。親御さんもどう接していいかわからない。

友人関係に目を向けるとコミュニケーションが苦手、関わりがもてない問題、発達の課題もあります。特にSNSによる疲れがあります。既読にならない不安、既読スルー、返信がこない。SNSによる疲れがあってコミュニケーションが苦手であることが、子どもたちの心を痛めているというのが現実です。

当然学校にいくことができているわけですから、学業不振、授業を受けていないことによる学習の遅れ、ややもすると音読、掛け算九九などが定着していないこともあるようです。つまづきを解消できていない。個別指導を続けることがひとつの大事な要素です小集団での学習、何に興味があるかを見いだしていきます。

そこで事業内容については、児童生徒への支援、保護者への支援、学校への支援、この3つを中心に進めていきます。対象は、市内学校の児童生徒でスタッフが各学校を回って説明を進めています。通所に興味をもっている児童生徒が十数名いるという報告を受けています。

名称は「名取市子どもの心のケアハウス」、通称「はなもも教室」です。「はなもも」は市の花です。開設場所は、旧閑上仮設公民館事務所で来週6月3日（月）午後1時30分から開所式を行います。市長さんには来賓としてお出でいただくこととなっていますし、教育委員の皆さんにも立会いをいただきます。

具体的な3点のサポート支援内容は、「心のサポート、適応サポート、学びのサポート」です。これらのサポートを通じながら教育相談活動の充実、コミュニケーションの力をたかめていく指導、児童生徒の学習支援などを進めてまいります。

担当者としてスーパーバイザーに元増田西小学校校長の沼田敦子先生にお願いをし、3名の心のケア支援員は、元教諭や教育実践の経験を持っている方をお願いしました。

担当職員と学校、関係機関との連携を図りながら、家庭への周知、家庭・学校からの相談を受けながら児童生徒の心のよりどころ、居場所としての役割となるように支援をしっかりと進めていきます。ご指導をよろしく申し上げます。

山田市長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえ協議を進めてまいります。まず、市内の不登校児童・生徒の実情についてであります。子どもたちの取り巻く環境にさまざまなことがあって、いま説明があったとおり不登校になっていると捉えられますが、この状況についてご感想・ご意見などあれば、お聞かせ願えればと思っておりますがいかがでしょうか？佐藤委員、何かございますか。

佐藤教育長職務代行委員

名取市の状況は、必ずしも少なくは無いですけど、現状でいろんな家庭の問題とか考えると、子どもたちは「本当によく頑張っているな」と現職の時代もそう感じていましたし、本当に前向きにやっているなと思いをしております。

津波の被災を受けた子どもプラス福島原発関係の子どもたちも結構名取市に住んでいます。通勤が便利なので名取市に住んで、南相馬に通う保護者。そのような子どもたちも市内中学校に十何人かいました。そういう状況を考えてそういうことも気にしているのだと思っておりますけども、子どもたちにとって非常に居づらい状況になっているのかもしれないと、私は思っています。

山田市長

居づらい？居づらいとはどういうことですか。

佐藤教育長職務代行委員

ずっと昔に比べてですけど、今40代くらいの大人は、ゆとりのある生活というか授業を受けていたのです。5時間授業がたぶん週3時間くらいあって、恐らく皆さん大体、美術とか技術家庭とか、2時間続きでじっくり取り組むような実技教科がいっぱいあった。

今は、そういうのがどんどん減っていて、美術も1時間で授業の準備をして、あと30分もしたら「はい。片付け」という形になって、勉強の優劣と離れて、おしゃべりしながらこう作るとか書くとか、そういうようなゆとりがなくなってきている。

あとは、昔であった行事がどんどんなくなって、例えば写生会とかあったり、芋煮会とかが

あったり。文化祭も3日とか2日あったのが、1日でやる。そういった状況になっていて、市内ではないですけど、文化祭そのものをやめているところも結構中学校なんかは多い。そういう状況を考えると、勉強漬の状態になっているんじゃないかと、私は印象を受けています。

山田市長

ありがとうございます。非常に踏み込んだ興味深いというかお話ですけども、実際学校でいわゆる学習指導要領というか、年間カリキュラムがあって、それをそこからどう直していくというのは、非常に難しい問題ですね。

実際、中学校によっては非常に行事が盛んな学校もありますし、確かに、実技とか授業に追われて、授業と授業の合間もなかなかゆとりがないというようなお話です。そういった側面もあるのかなと思いますが、それをどう改めていくかとなると非常に難しいですが、その辺はどうお考えですか。

佐藤教育長職務代行委員

行事は、大事にして欲しいなと思います。

山田市長

学校として、行事は大事にして欲しいというようなご意見ですね。

佐藤教育長職務代行委員

そうですね。そういうことも不登校児童生徒を減らすことになるだろうと思います。

山田市長

いわゆる仲間と過ごす時間というかコミュニケーションというか。相原委員、その点につきましてはいかかでしょうか。

相原委員

今、佐藤委員さんがお話したように、その昔からすればゆとりのないかなり厳しい状況にあると思うのだけど、何も学校だけの問題ではなくて、親も相当厳しい状態なんだろうと思います。子育ての中で、なんか余裕を持って子どもと対応するのではなくて、「ああ、時間外だ」「休日勤務だ」という状況の中で、相当子育てについて悩んでいる親が多いのかなという感じはしますね。

ただ、そうは言っても名取はかなりデータ的には少し不登校児童生徒が多めですね。ということあたりをどういうふうにかこれから考えていくかというのが大事で、何で多いのか。

あるいはこの二桁の人数なんです。学校ごとの差って、詳しく聞くとつもりは無いけど、学校ごとによってちょっと差があって、「どここの中学校はちょっと多い」とか、「ここは少ない」とか、「じゃそこの違いは何か」とかっていうところまで、多分踏み込んでいろいろ原因を考えていかないと、一人ひとりの子どもの状況もだけど、学校での取り組みというのも非常に大事なのかなって感じはしますね。

山田市長

ありがとうございます。今、実状としてもしくは分析をして、どこまで捉えておられるか、もしくはどんなふうを考えておられるか事務局では、いかがですか。

大友理事兼学校教育課長

中学校ですと不登校生徒が人数的に多いのは、やはり生徒が多い中学校です。小学校ですとそういった傾向は特に数字からは得られないです。どの学校にもいます。ゼロという学校は平成30年度はございませんでした。

山田市長

ゼロは無い。

大友理事兼学校教育課長

はい。必ずあります。

山田市長

学校によって多い少ないということに対して、何か分析されていることや感じておられることはありますか。

大友理事兼学校教育課長

そこまでの分析は、まだやってはいないのですが、30年度の生徒指導の状況調査というのが詳しくあがってきていないので、今取りまとめをしている最中です。出てくるのが7月か8月くらいに県調査が出たときに、確認します。

山田市長

分かりました。佐藤委員の方からは、授業のゆとりであったり、学校の行事関係であったり、もう少し盛んにしてみたらどうかというようなことがありましたし、相原委員の方からは、それもそうだけれども、親、家庭の方もちょっと余裕がなくなってきているのではないかというようなことも、ご意見いただきました。

こういったご意見ありましたけれど、いかがでしょう。洞口委員。

洞口委員

先ほど、相原委員さんが言いました、親の余裕ということについて触れてみたいと思います。10年位前と違いまして、親が余裕というよりも親の質感というか、考え方そのものがやはり10年前の親と変わってきている感じがいたします。それで、今PTAでもどういう活動を主に、親たちの研修とか講習会とかっていうのをやっているのか、私は分かりませんが、そういうのをPTA会長さん各学校にいらっしゃると思うのですが、そこら辺もPTA会長さんの方に、やはりそういうきちっと講習を受けさせて、そして下に下ろして行くような仕組みで、そしてPTAの親御さんたちをきちんと育てていただきたい。

まずは、親を育てていけば、子どものそういうのが少しは減っていくんじゃないかなとは思いますが、うのですけれども。

山田市長

今、親を育てるといふか、親御さんの考え方が変化してきているといふのは、それは例えばどのような方法ですか？

洞口委員

まず一つは、言葉遣いです。上下の無い言葉遣いですね。それから、あとやはり携帯電話やSNSとかそういうのも常にやっている状態で、子どもの話を良く聞いてあげてるのかなって思います。それから、子どももやっぱりそういうのに頼ってどうしても話しかけてもそちらに夢中になっているっていうので、それで叱る親もいるけれども、叱らない親もいるというようなお話を聞いております。

山田市長

いわゆる親子のコミュニケーションがなくなっている。親御さんを教育するといふとなかなか難しいですね。

洞口委員

そこはPTAでちょっと頑張っていたきたいなと思いますね。

山田市長

浅野委員はいかがですか。

浅野委員

そうですね。今、皆さんおしゃっていた親の部分からいふと、確かに私もPTAをやっている時には、それを実際感じていましたし、その時の教頭先生なんかとも話した時に、学校では子どもの教育はできるけれども、親の教育はできないところがなかなか難しいと。言っても要するに会話が通じ合わないような感じになってきたと。

私どちらかといえば教頭先生よりの年代よりになっていたので、「そうですね」というような話はよくしていました。親に対して、家庭教育支援ということで、名取市でも本当は小学校入学前の入学説明会の時に、家庭教育支援チームが入っていた授業があったと思うのですが、今年から無くなってしまって、支援員が入らなくなったと聞いて残念です。

PTA活動、学校入っているいろいろな活動が始まってきて、ある程度きちんと子どもを育てたい、学校にも協力したいといふご父兄の方。例えば、授業参観とか懇談会とかにも参加されますが、何かちょっと問題があるようなご父兄といふのは、何にも出てこなくて、伝えたいことが一切伝えられないのですね。

例えば、こういう良い講師を呼んでお話を聞こうといふても、心ある人はもちろん頼まなくても来るのですが、ちょっと是非こういう人たちに聞いてもらいたいといふ時には、その人たちはやはり来ない。その家庭教育支援として市として取り組んでいた事業があつて良かったなと思つた事業が、いま無くなってしまったことが残念です。

その子どもと向き合う時間が足りないといふことと、学校生活が大変で子どもが疲弊しているといふのが、実際に我が子を見てても感じますね。睡眠不足、慢性的にそうなるような生活にも原因がある。うちはスマホも高校生になるまでは与えてはなかつたんですね。それ

でもやっぱりなんやかんやと忙しかったようで、かなり疲れていたの感じます。

心のケアハウスということで、その不登校がどのような形であるかというのが、本当に様々な要因があると思います。この様々な要因の子どもたちに対して、どのようなケアをするかというのが本当に難しいことだと思うのです。やっぱりその名取市でこの事業に取り掛かるのも、もうちょっと、せつかく前からあったのであれば、東日本大震災についての心の問題ということでの事業が始まったものであったのとなれば、もうちょっとやはり早いうちに取り掛かっていけば、また違った結果になったかもしれないというふうには、ちょっと感じています。

山田市長

ありがとうございます。本当にあの学校の中の問題で、家庭の中のコミュニケーションの問題で、それからこれらPTAも含めて連携がなかなかうまく取れていない部分があるんじゃないかというようなお話だろうと思います。

それらを踏まえてですね、今回「はなもも教室」ということで、6月3日開所というふうになるわけなんですけど、さまざま今出されたような問題は、直ちにすべてこうすっきり解決するところまではいかないとは思いますが、どういうことを「はなもも教室」に期待をしていくか。または、どんな取り組みを進めていったらどうだというようなご意見等あれば教えていただきたいと思います。相原委員。

相原委員

今お話があったように、このスタッフで4人ですか、すべての子どもをというわけにはいかないですね。だから、この人たちがどうやって学校とネットワークをきちっと取って、あるいは今お話になったように、PTAとかとのネットワークを取って、個人名は別にしてもどんな事例がどんなふうな状況の中でそういう不登校になった、あるいは不登校から解決の方向に向かったというのが、常にこう親とかが先生方とのコミュニケーションの中に生かせるようにしていかないと。

これ100人いるところに職員3人ですね。毎日、じゃあ何人を見られるのということになる。そうは言っても職員の人数に限度ってあるわけですから、なんかそういう親・地域・学校とのネットワークをきちっとやっていかないと、ちょっと厳しいと思いますね。子どもにだけ接していても多分駄目で、子どもの親とか地域の人たちとつながりを持っていかないと、本当の意味で不登校って解決していかないんだろうなと思います。

山田市長

なるほど。はい、ありがとうございます。佐藤委員。

佐藤教育長職務代行委員

ネットワークという話が出ましたけども、4名のスタッフにあまり多くを期待してはいけないのではないかと考えています。

というのは、あの2枚目のこっちのリーフレットがありますね。一番下のところですね、大事な「はなもも教室は、子どもの居場所です」というところ。子どもが安心して過ごせる空間作りをまず力を注いで欲しい。そこで大体が自分ってだめな人間なんだとか、ほかは友たちができて自分には出来ない。いろいろな悩みを抱えてくるので安心してすごせる。あるいは

人に頼られるとか、人に必要とされるとか、異学年交流とかもあるのでそういう関係もつくり出してもらって、自分が自分でいいんだなと言うことを味わえる場所の空間にして欲しい。

後は、学ぶ喜び、楽しさを味わわせるような場所であって欲しい。安心して過ごせれば親御さんも少しは安心してコミュニケーションが子どもともとれるようになると思うので、まずはそのような空間であってほしい。

山田市長

一時的に子どもの居場所になってほしい。

佐藤教育長職務代行委員

そのために少しがんばって欲しいなと思います。

山田市長

先ほど相原委員からネットワークと言うお話があってそれも重要な点だと思うのですが、その点はどう考えていますか？

佐藤教育長職務代行委員

それは多分4人の方だけということは大変なことだと思うんです。学校に余裕があってきてもくればいいのですが、出向いたりとか、大変でしょうね。

山田市長

はなもも教室は、子ども達の居場所ということで先ず最優先にやってほしいということですね。ただネットワークはおそらくそれは、はなもも教室を直接支えるを支援体制が必要なんだろうなと思います。

確かに好事例でいい事例があってこういうことが原因あって不登校になっていたが、こういう形でこういう支援をしたら立ち直れましたという具体的な事例として紹介していくのが非常に大事。それを学校内・PTAと協議していくということが非常に大事だと思います。そういった意見がありましたけど、いかがでしょうか。浅野委員。単純にはなもも教室に期待すること。

浅野委員

月曜日の開所式に行ってみせていただいて、是非たくさん子どもたちの心も安心出来るような方向に持っていかれたらと思います。職員はこの人数ですし、場所が閑上のほうで山手に住んでいる人ものとしたら、不登校の子ども達が満遍なくそれぞれにいるということは、山手のほうにも結構いるのだろと思った時に通うのが困難。通ってみたいと思ってもなかなか困難であったりという事もあるでしょうし、どの程度の子ども達に利用されるのか見せていただいてというところがありました。

山田市長

洞口委員は、いかがですか。

洞口委員

不登校の現状ですが名取市はかなり多いですね。それで各学校の相談員さんの先生方がついていると思うのですが、はなもも教室について父兄の方々にご理解を頂いてそして、行っていただけるのならそちらの方に、なるべく行っていただけるように配慮をしていただいて、はなもも教室に期待するというか、やはり自然学習から始めたらと思います。

自然学習と郊外学習を含めて、自然のものの自然の花・野菜等、海を見るとかいろいろあると思います。自然学習を先に進めていただければ、少し子ども達も心を開いてくれるのではと期待しています。

山田市長

教育長いかがですか。今までのお話しを受けて。

瀧澤教育長

一つ一つの話聞いて「最もだな」と思って聞いていたのですけれども、学校の余裕のなさというのが、不登校に影響しているっていうのは私もはっきり因果関係はわからないのですが、あるのではないかなと思うんですね。

学校がこういう状況になってきたというのは、学校が週5日制、土曜日が休みになってになってその分の授業時数が、土曜日にやっていた分が平日に回るということで、あのとき学校行事の精選ということが、ものすごくあっちこちでいわれたんですね。どこの学校でも、今までと同じ事をやってたのでは授業時間の確保ができないので、授業時間を減らせないで学校行事を減らす。今まで2日かけていたものを1日にするとか、極端に言えばでは行事をなくしてしまう。

学校行事というのは、佐藤委員が話したように学校にとって非常な大事な役割を持っている。そこで特別活動で集団を育てる、集団の中で役割とかを認識したり、集団で行う喜び大切さを感じさせる大事な役割を担っているので、あまりに精選して欲しくないなということを私は現場で思ってきました。

来年から小学校の学習指導要領が変わって、授業時数も増えますので、平日の余裕がますますなくなってしまう状況です。今後検討する必要があるのですが、少しでも先生方と子どもたちにゆとりのある学校をと考えた時に、来年度以降年間の授業時数を増やすために長期休業の見直しもある程度必要なのかなと今考えているところです。

不登校の要因と言うのは、私が直接担任した子どもでも、1回不登校の子5年生だと思ったのですが、その子の場合原因がはっきりしていました。ちょっと具体的な学校名を言うと支障があるのですが、前の担任の他の子どもへの暴力、体罰それがものすごくつたわってしまったと、それはわかったのです。5年生になって少しずつ戻ったのです。

もう一つ名取市内のある学校で、教頭で関わった2年生の子だったのですが、学校の先生も親も“どうして学校に行きたくないの？”聞いちゃうですね。その子は首を傾げるのですが、親が何回も聞くんですね。例えば「算数の勉強がいやなんだ」と本人が言うんですけど、ただ私その子と1年半位付き合ったのですが、多分その子自身も原因がわからないと思うです。学校に足が向かない、お腹が痛くなったりする、ただ周りからどうして来たくないのか攻められるので、何か理由をいっちゃうんですね。それが解消したら行ける様になるかということ、そうでもない。一時期学校に来たけれど、結局解消しなかったということもあるのです。

不登校というのは人によってまちまちで、非常に難しいなと思いますし、親も核家族化でじ

いちゃん・ばあちゃんもいなくて、子育ての仕方いろいろあった時に相談できないとか、実際不登校の親とさっきのケース以外にも話をすると、まず戸惑ってどうしたら良いかわからない。なんとしても泣いてる子どもを無理やり学校に行かせるのか、対処がわからないというのを感じますね。それは親を責められない件数が多いような気がしたのですけれども、そういうサポートをしたりする人が必要かと思っています。

はなもも教室については、午前中、管内の教育長の集まりがあって先行している自治体の教育長に話を聞きました。そこはケアハウスを何年か前に立ち上げて不登校がすごく減ったという実績があった。あちこちで成果は挙がっている。

それでは名取ではこれまで何もやってこなかったというと、学校の先生達方はかなり一生懸命にやってくれているなと思います。忙しい中別室登校で来た子どもに、授業の合間を見て世話をしたりとかやっているんですけれども、それでも不登校はなかなか解消しない。

今までいろいろあるもう一つの選択肢として、居場所としての「はなもも教室」っていう話がありましたが、居場所として利用し子ども達が通ってくれれば良いなと思います。また、ネットワークという話も出たんですけれども、いまスタッフは各学校を回って学校との関係も作っているし、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーともパイプをつくっております。子ども支援課や訪問指導員ともネットワークをつくりたいと思っています。

ここに「はなもも教室」の役割としていくつかあげてますが、いま十数人が通所に興味を示せると言う話を聞いたので、全てをやるのは難しい。第一にやらなければいけないのは、来た子どもは受け入れて、あそこで居場所をつくってあげるということを1番に考えていきたい。学校復帰をめざすけれども、同時に学校復帰はあからさまに呼びかけたいということではなく、あそこで過ごさせて、規則正しい生活とか、他の子とのかかわりとかを学ばせる中で、自然に学校へ気持ちが向くように、最悪学校へ行かなくても前向きに生きることが出来るような生活をさせてあげれば良いのかなと思っています。

まだまだスタートしていないのでスタッフとの話し合いをしながら取組んでいきたいなと思っています。

山田市長

限られた体制の中で進めていかなければなりませんので、まずは子ども達の居場所として安心できる居場所、規則正しい生活などありますね。先ず自信を付けさせてあげたいです。これまでの訪問指導員がいるということも、導入を少し考えてきた原因、理由の一つだと思うのですが、訪問指導員さんとはなもも教室との関わりってどうなんでしょう。

大友理事兼学校教育課長

訪問指導員さんは中学校に所属配置しているので、小学校にはないのですね。中学校は週に1回程度の配置事業でした。基本的にははなもも教室にスーパーバイザー、学習支援員さんがいますが、この訪問支援員さんが学校に来るこの時間を見計らって、出向いて情報を共有したり、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの関わりをもつことができると思います。

昨日も会議があって、スクールソーシャルワーカーの先生が「是非、情報共有する場が欲しいです。はなもも教室に行って関わりをもちたいです」とお話を頂いているので、事業が進む中で、今後、訪問指導員、カウンセラー、スクールソーシャルワーカーと関わりを密にしながら

ら多面的な対応が出来れば、どこかに子どものつながりが出来て“居場所”としても役割を果たせることが出来ればいいなと思っています。

山田市長

他の市町村でも効果が上がっているところもあるということですので、是非そういった取組を進めていきながら、“名取らしい”名取のモデルになるような形で造っていただければいいなと思いました。是非ご協力をお願いしたいと思います。子どもの心のケアハウス運営事業について何かいっておきたいことは、相原委員。

相原委員

このはなも教室に通う人がたとえば20人だったら、それでお手上げの感じになることが想像つく。だからこそ今いろいろ話し合ったような、ほかのスタッフの方、スクールソーシャルワーカーとかの連携がないと多分やっていけない。

通所する子ども一人一人すべての生徒に関わること、言葉で言うのはいいけど、もし1日に10人きたらそれを職員3人で対応していく。かなり大変。その辺を他の学校との連絡調整なんかを含めてうまく調整して運営して行ってほしい。それなりの効果はあると思うんですね。是非その辺を頭に入れておいて頂きたい。

瀧澤教育長

今の時点で通所に興味を示している子どもは、小中合わせて13名おります。13名が毎日通所することを考えていますが、職員4人いますけれども、週5日のうち4日勤務ですので常時は3人、1日だけ4人がそろうことになります。

実は昨日運営について内部と打合せをしたのですが、例えば学習支援に大学生とかボランティア、退職した先生とかを考える。また、いろいろ体験活動をするときにゲストティチャーをお願いできないとか、あと具体的に出ているのは、風作りとかそういった話もでているので、そういったことを模索しながら運営をしていきたいと思っています。

山田市長

わかりました。以上で終わりとさせていただきます、次の議題に移ります。

次に、(2)「復興ありがとうホストタウン事業について」を議題といたします。

5月26日、復興ありがとうホストタウン事業の第一弾としまして閑上地区まち開きにおきまして、これまでのカナダとの中学生派遣事業による交流の様子や震災時の支援などのパネル展示、カナダの飲食物を提供するブースを設置して、PRをしてまいりました。今年度から来年度に向けて、多くの市民に関心を持っていただけるように取り組むこととしております。

本日は、事業を成功させるためにどのようなやり方が有効か、何が必要か、意見交換をして参りたいと思います。まずは、資料に基づき、事務局から説明をお願いします。

佐々木復興ありがとうホストタウン推進室総括リーダー

佐々木と申します。よろしくお願いたします。

お手元の資料2、まず、「(1)復興ありがとうホストタウン事業の登録」につきましては、平成29年10月に新設された制度として、名取市としては平成30年6月にカナダを相手国とす

る復興ありがとうホストタウンに登録されたところです。

「(2) 復興ありがとうホストタウン事業について」は、大きくはオリンピック期間前・期間中・終了後にそれぞれ事業を考えております。期間前①オリンピック期間前には、市民を対象とした元カナダ大使の講演会の実施や気運醸成のための市民交流会を大使館等のカナダ関係者を招待して開催したいと考えております。②は来年度、期間中の事業になりますが、オリンピック期間中は、市民応援団を結成して会場においてカナダ選手応援することを計画。③オリンピック終了後に考えていることは、カナダ選手団が帰国する前に招待して市民との交流を図る事業を展開していきます。

次の2ページになりますが、3点ありますがオリンピック終了後に考えている事業、市内の復興状況等視察、市民による感謝の集い、市民とのスポーツ交流事業を大きくはこのような事業を展開していけたらという風にと考えているところであります。

PR関係としては、今年度から早速取組んでいくところですが、先ほど市長からお話がありましたとおり、先日のまちびらきにおきましてメイプル館を会場にいたしまして、PR第一弾といたしまして復興ありがとうホストタウン事業のこととか、視察や支援を受けた状況等をPRしてまいりました。

本日お配りしているうちわも夏祭りの時に広く市民に知って頂きたく作ってみたもので、名取ではカナダを応援していますということや、どんぐりアンみんなの図書室や閑上メイプル館の写真を掲載して作ったところ結構目立ちまして、みなさんに扇いで盛り上げていただいております。

あわせて委託事業といたしましてカナダの雰囲気をかもし出すためにメイプルシロップ掛のパンケーキだとかメイプルティ試食コーナーを設けました。来場いただきました方々にPRは少しできたかなと思うのでございます。

今後、夏祭りや秋まつりのイベントとか、中学生海外派遣団の記念事業などの記録の展示等いろんな機会を通じて広くPRを行っていきたいと考えているところです。

「(3) 復興ありがとうホストタウン事業の推進体制について」は、名取市あげての事業ということで庁内には推進本部を設置いたしました。4月と5月に1回ずつ推進本部会議を開催協議をしてきました。事業の実施主体になりますのは、市内の公共的団体や学校等による復興ありがとうホストタウン推進実行委員会を組織して、これに全職員が協力していく形で推進していく形を考えております。

推進実行委員会は公共団体の長ではなく、団体から推薦をいただいた方を25~26名程度を実行委員会の長として市長が会長として開催していく形を考えております。

別紙2推進体制図をご覧ください。A4横版の推進体制図になります。

左上の太枠の部分が推進実施体制で、事業のこちらが実行委員会で全ての主体となります。こちらと右側の点線で囲まれているのが庁内推進本部となりますが、情報共有や連携を図って進めていく形になります。今後の協力要請とか関係部署とか全職員に向けて協力を要請していく形となります。そういった協力要請をうけて、全職員が協力体制を組んで実行委員会を盛り上げていこうと言うことが太枠の点線で表していくこととなります。実行委員会が主体となしまして、全市民、団体、企業、学校と共に広く呼びかけていこうということが実行委員会から下へ伸びていく矢印となります。一番下のところが連絡調整事務局、全体的連絡調整や全体的な事務局になるのが推進室ということで、こちらから広く広報や通知や全体的な調整や情報共有を図っていくことで市長、全市民の皆さんが関わるような体制を今、考えているところであ

ります。

資料にもどってください。

当初、考えておりましたのは推進本部を下部組織といたしまして推進班、実行委員会の下部組織と部会等の設置を当初考えていましたが、先日の推進本部の第2回会議の協議結果を踏まえまして最初からそういった部会を設置するのではなく、必要に応じて今後設置することもございますが、最初は推進本部と実行委員会という大きな柱となって進めていきたいと考えております。実行委員会につきましては、これから各種各団体と協力していただける人にご依頼申し上げて7月に第1回実行委員会を立ち上げたいとスケジュール的に考えております。

最後に全体のスケジュールになりますが「(4)復興ありがとうホストタウン事業推進のスケジュールについて」は、A3横版になりますが(2)、(3)で説明させていただいた事業内容と推進体制の全体的なスケジュールは別紙3のとおりとなります。資料に基づく説明は以上となります。

山田市長

まず、閑上まちびらきをかわきりにPRをスタートしてこれから、広報でカナダ特集なんかを取り組んでいきたいと思っています。具体的には、今年の10月に元カナダ大使に見に来ていただいて講演会をしたり、市民応援団を結成したりチケットは販売が終わっているようですけども、この分はおそらく用意できているという前提で進めてまいります。

オリンピックの選手、オリンピックの選手が帰る前に交流会も企画しています。また、終わった後、復興の状況を見ていただいたり、感謝の集いをやったりスポーツ交流をしたりという環境で進めていきたい。

とにかくこれまで復興関係では大変お世話になっているカナダに対して、しっかり感謝の気持ち“ありがとう”で伝えたいと思います。市民の皆さんと一緒に市を挙げて実施することが非常に大事なことになると思います。これが成功の鍵を握ると思います。

このことについてより多くの市民に参加していただくための方策、盛り上げていくために皆さんからアイデアや、いまの説明に対するご質問ご意見などあれば、お願いします。佐藤委員いかがでしょうか。

佐藤教育長職務代行委員

そうですね、カナダから支援頂いたことは市民の方は周知されていると思うのですね。直接カナダのオリンピックの方々に来て、その方々が見てカナダが支援したなとわかってもらったり、名取市に来ていいところだなと思っていただければと思います。

山田市長

模範的な回答ありがとうございます。自転車競技を想定しています。カナダの自転車選手と言われて、大リーグ選手と違うので、難しいと思いますが、是非盛り上げていきたいんですけど、洞口委員。なにかアイデアとかありませんか。

洞口委員

全て終わりましたら、皆さんを招待して何かイベントをやるわけですね。その際どの位の人数でお呼びする予定なんでしょうか？想像できませんか？

渡辺復興ありがとうホストタウン推進室長

何分にも実行委員会 7 月に立ち上げまして、いろいろ市民団体等を巻き込みまして、これから予定している交流会・事業等についても話し、協議していく訳になるのですが、どのようなことが出来るんだろうか。その中でどの団体がどういう工夫をして、実行委員会として巻き込んで、市民とともにカナダ選手を巻き込んでいける事業ができるのか、先ず具体的ところまでいかないですが、出来るだけ多くの方にきていただきたいなと考えております。

先日 26 日の関上まちびらきの際にもカナダの大使館からも来ていただきましたし、ブリティッシュコロンビア州の州事務所からも来ていただいて、アルバータ州、カナダウッズの 4 つ組織の方々に来ていただいて、復興の現場を見ていただいたんです。

広報を切り口にしてカナダと言うところを、名取市がホストタウンとしてこれからいろいろ展開していくとのことをたいぶ話させていただきました。そこから広げていって、知っていただきたいなと思っておりますので、努めていきたいと思っております。

洞口委員

夏祭りに期待します。秋祭り続いておりますが、夏祭りの PR、これからいい意見いろいろ出てくると思うし、いいアイデアが出ればと良いなと思っております。

山田市長

とにかく出来るだけ多くの方々に参加していただいて、名取市をあげていくかたちにしたいし、市民応援団を結成していく方向性は、なんとなく決まっているのですが、具体的にどうやって募集するのか、その辺のことは、サイクルスポーツセンターのスポーツ交流は自転車選手だから自転車に乗るのですが、その中身は漠然としておりますが、まだこれからです。今日は漠然とした話でいいのですが何かありませんか。相原委員。

相原委員

昔のサイクルスポーツがあった時に、車椅子の人と普通のサイクルリレーみたいなことを経験したことがあって、市民の年齢制限で幼稚園の子どもが走った後、次小学生と年代別リレーで、あんまり長い距離ではなく、幼稚園・小学生が参加するとなれば親も来るので人はごそと集まる。

ただ、オリンピックとパラリンピックの期間がずれているから、オリンピックに出た人がパラリンピックまで待っていくのか、それともまた来るのかそういう感じがこれから検討していかなければならないですね。

山田市長

現状としては、オリンピックからあたっていきたいと思っております。

相原委員

何かそういうこう、みんなで行って楽しんで最後に花火でもドーンと上がるような、港周辺でやれたらいいんだろうな。その前のオリンピックの応援等は着々と進めていって、最後のイベントをやっぱり盛り上げる工夫が必要かな。

山田市長

あの面白いですね。その幼児から始まって、小学生、中学生、高校生、大学生と続くサイクルリレー。

相原委員

年代別・地域対抗にしてカナダの選手が、そこに中にゲストとして入る。カナダの選手だけのチームではなく、カナダはゲストとして入ってもらう。

山田市長

一つの自転車を使ってすると面白い。幼児から始まって小学生、中学生、高校生、大学生、カナダの選手に入っていたりってということであると面白いかな。

相原委員

三輪車がいるともっと面白いかなと思う。

山田市長

ありがとうございます。他に何かありますか。洞口委員ということありますか。

洞口委員

夏祭りとか秋まつりにタイアップ行事として、一緒になってカナダの方が好むようなものとか地元の食材が振舞える機会があればいいんですけどね。ブースとかもあればね。

山田市長

夏祭りにぶつけるとい事ですか

洞口委員

それでもいいですけども、その後でもかまわない。時間の問題とかもあるのでひとつブースを設けてお願いしたいと思います。

山田市長

浅野委員いかがでしょう。

浅野委員

オリンピックの年の2020年の時の夏祭りPR関係のところには夏祭りの後とありますが、夏祭りっていつでしたっけ。8月ちょうどその時オリンピックをやっているんでしたっけ。その期間PR活動に関われないのではないのでしょうか。

山田市長

期間ずっと応援に行っているわけではないので。

浅野委員

サイクルスポーツセンターっていつ出来るんでしたっけ。

山田市長

来年の秋のオープンに向け進めています。ただ走路は使えると思うので、活用は出来ると思います。

浅野委員

是非、若い人たちそのカナダの選手たちとカナダの人たちと交流が出来るのでしたら、是非若い人たちに参加してもらって、何のためにやっているんだと言うことを忘れないでというようにメインを実施してみたいと思います。

具体的にはわからないですけども、目的がきちんとわかって感謝の気持ちが伝えられるようなイベントが出来たらいいなと思います。

山田市長

ひとつ夏祭りはあえていれてませんが、PR関係は夏祭りをいれたほうがいいですね。一番ホットな時期ですね。オリンピックはやってるし。

それから、サイクルスポーツセンターの完成と時間がどうなるか、そこもしっかり対処していきたい。ありがとうございます。他に何か復興ありがとうございますホストタウン事業について、アイデアなりご意見なりございますでしょうか？

佐藤教育長職務代行委員

おもてなしと言うこと事ではなく、ただ単に見ると言うのではなく、やはり参加型が一番だと思いますね。自転車リレーとかそういうのも大事ですけども、もちつきを一緒にやるとか、一緒にやるということが思い出に残るのかなと思います。一緒に踊りを踊るとかそのようなイベントだといいいのかなと思います。

山田市長

参加型とイベントというのが、みんなで楽しめそうですね。

事務局におかれましては、本日の協議内容を尊重し、事業に取り組んでいただきたいと思えます。協議につきましては、これまでとさせていただきます。

以上で、本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。ありがとうございました。

次に、「4 その他」ですが、教育振興基本計画について報告があるとのこと。事務局お願いします。

大友教育部次長兼庶務課長

それでは、報告資料に基づき、ご説明申し上げます。はじめに、資料を確認させていただきます。報告資料1は、教育振興基本計画策定事業スケジュール表です。報告資料2は、教育振興基本計画策定委員会設置要綱です。報告資料3は、教育振興基本計画の目標・施策設定におけるフロー図（概念図）です。報告資料4は、教育基本法を抜粋したもので、第17条第2項は、教育振興基本計画に関わる根拠条文となっております。

それでは報告資料1、策定事業スケジュール表をご覧ください。

教育振興基本計画の策定は、今年度内に策定作業を行い、来年度の当初には計画を完成させるよう、取り組んでまいります。基本的な策定の流れにつきましては、教育振興基本計画策定委員会を立ち上げ、計画を審議することとしております。

報告資料2をご覧ください。

既に、名取市教育振興基本計画策定委員会設置要綱を制定しており、これから具体的な委員の委嘱を進めてまいります。策定委員は、8名です。学識経験者や教育団体などから推薦された者をメンバーに委嘱してまいります。報告資料1、策定事業スケジュール表も合わせてご覧いただきたいのですが、第1回目の策定委員会は、7月初旬までに開催することとしております。第1回目の策定委員会は、委嘱状を交付後、計画の策定方針や策定の進め方、大綱の自己評価結果・市民意識調査について説明してまいります。

基本計画の「策定の考え方」については、報告資料3をご覧ください。

これは、目標・施策設定における概念図になっております。左側の上からになりますが、国の計画、県の計画、教育大綱の自己評価の結果・市民意識調査の結果、そして名取市第6次長期総合計画の各項目を参酌・反映させて基本計画を策定してまいります。計画期間は、第6次長期総合計画と同様の期間としたいと考えております。これは、市の基本的計画が長期総合計画であることから、その基本目標を反映させる意味からも同様の計画期間としたいと考えております。計画の体系は、目指す姿、基本目標、基本施策、そして特徴的なのが施策の目標値・指標を設定ということで「具体的・客観的な指標」を目標ごと、または項目によっては施策ごとに設定してまいりたいと考えております。これは国や県の計画、第6次長期総合計画においても、数値目標や具体的な指標について、明記することとしていることから、教育振興基本計画についても可能な限り取り入れてまいりたいと考えています。策定委員会での検討は「基本施策」までの部分です。重点施策については、毎年更新しております「教育基本方針」で設定してまいります。なお、教育振興基本計画は長期的な視野をもった計画であります。この「教育基本方針」については中・短期的な計画と位置づけております。

さらに、「教育基本方針」は、毎年、学識経験者などの第三者から点検評価をいただいておりますことから、その点検評価の結果を踏まえ、施策をフィードバックし、PDCAに即したかたちで、中・短期的な教育事業・教育課題について対応してまいります。

報告資料1にもどります。

教育振興基本計画の骨子案は、11月までに開催する第2回の策定委員会で検討いただきます。その後、11月下旬の総合教育会議におきまして、計画案を市長・教育委員のみなさんで協議いただきましたと考えております。総合教育会議の意見を反映させた後、年明けになると思っております。第3回目の策定委員会で計画の最終案を決定してまいりたいと考えております。

その最終案についてパブリックコメントを求め、議員協議会でご意見をいただき、市長・副市長・教育委員会で調整後に来年令和2年4月には、計画を完成させ、5月の総合教育会議の席上で完成品を配付できるよう努めてまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

山田市長

ただ今、事務局から説明がありました。報告であります。ここで確認しておきたい事項などありましたら、いただきたいと思います。いかがでしょうか。

(全委員なし)

山田市長

本日は大変お忙しいところありがとうございました。それでは、事務局にお返しします

大友教育部次長兼庶務課長

事務局からは特にございません。

山田市長

では、以上をもちまして、第9回の名取市総合教育会議につきましては、終了させていただきます。ありがとうございました。

大友教育部次長兼庶務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、「第9回名取市総合教育会議」を終了いたします。大変ありがとうございました。

10 終了時刻

午後2時30分

以上